midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

March 2014 No.369-370

3月号の１枚：大雪で相模湖駅までたどり着けず、勉強会のち雪かき大会

# ［巻頭言］極寒の森林作業現場

## 農林業に携わる者は、神の事業の代行者

昨年10月号で、三重県の林業会社に就職して4年目になるNさんの真夏の森林作業状況を聞き、その過酷さと、彼から聞いた森に対する決意を報告した。では、真冬・極寒の森林現場はどうなのかと、先月北都留森林組合の中田参事にお願いして、東京と山梨の県境の森林作業現場を見に行った。途中までは普通の山道であったが、作業林に入ると砕石を敷いた作業道となり、H鋼と丸太を組み合わせた頑丈な作りで、積載量共フォワーダー約10トン強の加重に充分に耐えられるように出来ていた。現場は12齢級・60年生の見た目にも美しい杉の整備林でグラップル１機、プロセッサー２機を一班とする作業場で、機械操作をしている人の熟練度は、素人目にも「凄い！」という印象であった。真夏の作業状況同様、極寒の森作業も過酷な現場であった。土場までの道も別に見せてもらった。

中田参事によるとＡ材（良材）が６～７割を占めているが、出荷先は木材市場が主で、立米１万円にもならない事もあるそうで、その理由は林業が自由に動けない様々な「制度規制」が有るからとのこと。そうであれば林業が苦しいのは当然である。休憩時間に作業員の皆さんと言葉を交わした印象は、あの真夏の森で直向に働くＮさんから受けたものと同じであった。

かって私は仕事で４年間韓国に滞在し、2泊3日のソウル農林市場での韓国有機農環境研究会合宿に参加したことがあるが、総会で柳達泳ソウル大学総長から「農林業に携わる者は、神の事業の代行者である」と聞いたことが強い印象に残っている。我が国の苦しい一次産業：森林・林業現場に携わる方々は、正しく神の事業の代行者だと感じた。同時にこのまま森林・林業の荒廃が進めば、我が国の存亡につながると思うのは大袈裟であろうか。

石村　黄仁（本会、代表理事）

## 今月の定例活動

2013.03

3月 2日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

3月16日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

## [定例活動]小原本陣の森

2月2日（第一日曜日）

季節的に厳しい寒さが続く時期、2月第1日曜日に行われた小原定例活動当日は、天候に恵まれ暖かい太陽の陽射しが差し込む小原地域の四阿付近の林で、ForestNova☆からは計8名が参加し、地主である永井さんや緑のダムの川田さんと共に枝打ち作業を行いました。

午前中は枝打ちに使う道具である「ムカデ梯子」の使い方と、安全帯の使い方を教えてもらい、安全第一を心掛け、道路側に垂れてしまっている枝を切り落とす作業に入りました。午後も引き続きひたすら枝打ちを行い、枝打ち後は落とした枝の整理を行いました。

枝打ちという作業は高所での作業が主なものです。ムカデ梯子の一番上の高さは4~8mに及び、また、永井さんが持って来てくださった高さ15mにもなる二連梯子も使いました。ムカデ梯子に上ってみるとその高さに驚く人もいれば、はしごより更に上に生えている枝に上りその上の枝から打ち始める人もいました。自分も枝の上に上る枝打ちに挑戦してみました。最初は枝が折れるのではないかと不安でしたが、枝は自分を支えてくれました。生きている枝というものはとても丈夫なのです。

その日の作業を無事に終え、片付けをしていると林に西日が差し込み始めました。作業前は垂れている枝の葉に光が遮られていて、光が入ってこない暗い森でしたが、その枝がなくなることによって林に入り、地面の草にも日光が当たるようになったのです。

枝打ちをする目的はいくつかあり、ある時は商品価値を確保するため、またある時は日光を入れて中低木の育成環境を整えるためなどがあります。今回の枝打ちの目的は永井さんからの依頼より、「四阿と、道から見える景色を見やすくするため」のものでした。目的が違うと手段も異なります。景観のためとなると、枝を下から何メートルまで全て切るという方法で枝打ちを行います。これだと、中低木に直接日光が当たってしまい、どちらかというと生態系に悪影響を及ぼしてしまうことがあるのです。

自分は景観のための枝打ちという作業に夢中になりながらもなぜこの方法で枝打ちをするのだろう、これは果たして森にいい影響を与えているのだろうかと、疑問を抱きながらも活動を続けていました。作業後にこの疑問について尋ねたところ、「疑問に思ったことはその場で聞かないと身につかない」と言われました。自分はこの教訓を生かし、「なぜ？」と思う気持ちを常に持ち、行動していきたいと思います。

山田　和彦（Forest Nova）

## [定例活動]相模湖嵐山の森

2月16日（第三日曜日）

文句のつけようのない晴天であった。が、残念ながら前日までの大雪のためＪＲ中央線のダイヤは大きく乱れ、あげくは高尾駅止まり。相模湖駅へと向かう線路は厚い雪に埋もれ、いつ開通するか見通しはつかない。「１ｍくらいは積もっている」との山主・鈴木さんからの事前情報は確かであった。それでも高尾駅には高井戸中の生徒を含め２４名が集合。雨が降っても槍が降っても活動を一度足りとも休んだことのない緑のダムとしてはここでむざむざ引き下がる訳にはいかない。さて、どうしよう。

フォレストノバのメンバーと麻布大・原田先生が機転をきかせ急遽、駅近くの浅川市民センターに連絡をとり、そこで室内勉強会を開くこととあいなった。

勉強会は川田さん持参のＤＶＤを使ってのもので、ひとつめは「森に生きる」。林業、草木染め、わっぱ作り、竹細工など、ここでは様々な形で森に関わる匠の姿が描かれる。森や木々と日々直に接している人々

の言葉には素朴ではあるが、しっかりと地に足のついた力が込められていた。「木のことをもっと知っておくべきだと思いました」とは高井戸中学生、「森林を守ることは伝統を守ること」とはノバ新メンバーの弁。

ふたつめは「提案型集約化施業と経営―林業の再生を実現するために」という林業の現状と将来に踏み込んだＤＶＤ。「森林こそ日本の国内に存在する資源。これをいかに使うか。今が最初で最後のチャンス」と述べる梶山恵司氏は当会とも関わりのある人物。作業道づくりの場面では当会会員でもある東大教授の酒井先生も登場し、緑のダムの人脈の豊富さを改めて実感した次第である。ついでながら、森林施業について解説されていた藤森隆郎氏は、私がある資格をとる際の講習時の講師でもあった。その後、川田さんからまさにこのテーマに沿うように小原地区で展開されている林地団地化、集約化施業への取り組みの経過報告がなされる。嵐山の活動だけでは見えてこない緑のダムの側面を垣間見るよい機会となったようだ。

最後に高井戸中・地球環境部部長の感想を紹介したい。

「僕たちは2月23日に嵐山で活動があるはずでしたが先日の大雪の影響で電車がなく急遽浅川市民センターで二本のビデオを見ました。地球環境部からはテスト前だったこともあり参加人数は10人にも満たないほど少人数でしたが皆で楽しく勉強しました。

今回僕達が見たビデオは二本とも林野庁が製作したものでした。一本目の内容は林業について全般でした。中でも機械化林業については興味深く、今の林業の現状や問題点を学びこれからの対策の一例を学習しました。ビデオ後の意見交換では、様々な年代の人たちの違う面からの見方や意見が参考になりました。

二本目のビデオは最初のものをさらに詳しく説明したもので、中学生には少し難しめの内容でした。それでも必死に理解しようとしていました。

午後はセンターの前の通路の雪かきを大学生と共に行いました。東京での雪は珍しいので全員楽しみながら一生懸命作業しました。嵐山での作業中止は残念でしたが、滅多にできない活動ができて良い経験になりました」

雪かきをしよう。中学生たちからのこの思いがけない申し出に、浅川市民センター職員の方々は少し戸惑いながらも、その表情はほころんでいた。

内野　郁夫（本会、理事）

## [報告1]
## 「緑のダム」の活動に参加して

１月の「NPO緑のダム」の活動に、久々に参加させていただきました。

一昨年、「大月森つくり会」の恩賜記念事業に石村さんと麻布大学の学生さんに参加いただき森づくりに参加している大月短大の学生達とも交流の機会が得られました。

「緑のダム」の活動に麻布大学をはじめ若い方たちが活発に参加していることをお聞きして、また交流の機会をと考えていました。

今回、短大の先生もご一緒に参加することが出来、「緑のダム」のメンバーの方々が、多面的に自立して活動され、更にいっそう活動が深く・且つ幅広くなってきているのを目にすることができました。麻布大学の学生さんたちには、一緒に活動に入れて指導いただき、短大の学生達にも大いに刺激になったと思います。参加した学生の感想文を加え、参加のお礼の言葉とします。有難うございました。

河西　悦子（大月森つくり会）

大月短期大学の参加型授業である「地域実習」では、大月森つくり会代表の河西悦子さんたちに指導していただき、教室では学べない貴重な体験を重ねています。今回の授業では、麻布大学「フォレストノバ」の皆さんにご指導をお願いしました。

最初に森林に入り、なぜ太い杉や細い杉があるのか、また森の中に生えている珍しい木や葉、動物について学びました。次に森林整備の一環として、落ちている長い木の枝を短く切り、１か所にまとめる作業をしました。ノコギリは全く使ったことがなく難しかったのですが、フォレストノバの皆さんに切り方のコツを教えていただき、徐々に上手く切れるようになりました。また、午後は間伐と枝打ちの作業を見学しました。始めにどの杉を切ればよいか、杉が倒れる方向を考えながら慎重に選びました。チェーンソーでしか切っているところを見たことがなかったので、ナタやノコギリを使った切り方を見るのは初めてでした。ナタで切り込みを入れてからノコギリを使い、最後はロープで引っ張りながら倒すという流れでした。たったこれだけの作業で、大きな杉の木が倒れたことに驚きました。これなら女性でも出来ると思います。森林再生活動では、他に花の栽培なども行っているそうなので楽しいと思います。

「地域実習」の活動に参加して、普段の生活の中ではできないような事が体験できました。毎回学ぶことは違いますが、全て自然や森と関係していて、常に森と動物、人が共存している感じがしました。森つくりから学んだ知識を、これから生かしていけたら良いと思います。

小林　ゆか（大月短期大学）

## [報告2]
## ForestNovaの近状報告

暦の上では春とはいえ、まだ寒い日が続いています。私の実家がある長野県佐久市では自宅の物干し竿の高さまで雪が積もったと聞き驚かされました。

去る1月15日にForestNova☆メンバーが多く所属する麻布大学にてESD交流会が催され、私たちはForestNova☆として参加してきました。ESDとは“持続可能な開発のための教育”のことで、この交流会の趣旨は“麻布大学で学ぶ中でESDの可能性に気づき、各団体がゆるやかに連携をしていく”というものでした。この交流会には麻布大学教授である原田先生と村山先生をはじめ、ForestNova☆、麻布大学の環境サークルや同大学の自治会生、帝京科学大学の学生でForest Nova☆の活動メンバーも2人参加し、約20人近くの学生が集まり交流会が催されました。

始めに村山先生よりESDに対しての簡単な説明が行われ、相模原市緑区青根地域の田んぼでの活動を中心としたサークルのあざおね社中、Forest Nova☆、鎌倉の明月荘若者の会よりプレゼンテーションが行われました。その後は参加者同士で自由に話したり、1月27日に行われたESDのつくりかたワークショップの説明等が行われました。

今回のような学校や学科、先生と学生といった立場を超えた交流会では、日頃の授業や私生活では知りようのない知識を得ることや、また普段お話をしないような方ともお話をすることができ、とても刺激になりました。私は今後も積極的にこういった交流会に関わっていきたいと思います。

現在、Forest Nova☆では3月29日（土）に相模湖小原地域で行われる小原ライトアップ、4月5（土）,6（日）に相模原市役所周辺で行われる桜まつり、来年度の大学新入生を対象とした新入生オリエンテーションなど、春のイベントについて話し合いがされています。まだどのイベントについても当日の内容等を話し合う段階まで至っていませんが、今後の話し合いを通じてより良いイベントにしていきたいと思っています。またそれ以外にも、代表や副代表、会計等の役職や森を「しる・つくる・つなぐ・いかす」といった4つの方針、リーダーの交代についても話し合っています。現在は今後メインとなる1、2年生が10人もいない状況で限界もあると思いますが、森に対する気持ちを一人一人が絶やさず、しっかりとした基盤をつくり、これから入る新入生にも引き継いでいきたいと思っています。

釜谷　優太（ForestNova）

## [報告3]
## 残雪状況について

２月２６日に小原本陣の森（写真左2枚）、相模湖嵐山の森（写真右2枚）の残雪調査を行いましたので、以下報告します。

[1]小原本陣の森：四阿周り

残雪30～50cm、間伐材の残り１本の伐倒作業は可能だが、林床の片付けは、残雪で不可能。道具の運搬は、嵐山の軽トラ小屋の屋根陥没の為、軽トラが動かせない。間伐作業は延期とする（４月は桜まつりの為、５月４日に延期）

[2]小原本陣の森：基地への道路

残雪30～50cm。雪が深く、時間の関係もあり、スリットダムまでしか行けなかった。途中倒木で道路不通有り(約５本)。撤去が必要。スリットダムから先の状況は不明。

[3]嵐山：残雪30～50cm軽トラ小屋の屋根の残雪は９割は下したので、２日までには無くなると思う。

道路から軽トラ小屋まで雪掻きしたので、２日までには土面になると思う。

森の中には、深雪で入れないので、詳細状況は不明。道路から見た範囲では、落枝程度で倒木は見られなかった。

川田　浩（本会、理事）

## 会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●第12期（2013年9月～2014年8月）と2015年3月まで
先月号に続き、会へのご支援いただいた方です。
会員のみなさま、会へのご支援ありがとうございます。（掲載は振込順になります）

## 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

## 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。


## NPO法人
## 緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス



協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版